

サイバー攻撃

JJ1SXA/池

戦争は無い方が良く、世界に戦争が皆無になるのが理想ですが、そうはいかず、一触即発の危険が隣国から迫っているし、更に、サイバー攻撃はもっと現実的です。

「戦争とは、外交で解決できない問題を武力で解決することであり、より広い意味でとらえると、国家間における国益を追求するための平和的な手段以外はすべて戦争であり、平時から相手国の政策や科学技術情報を不正に盗むことも一種の戦争となる」と言われています。

米国防省はサイバー空間を、陸海空と宇宙に続く「第 5 の戦場」とし、サイバー攻撃に対して武力による反撃を行うことを宣言している。

日本では、今までサイバー攻撃は戦争と捉えず、警察権で対応する犯罪扱いです、サイバー攻撃に対する防御も甘い、ようやく、昨年 6 月、内閣官房情報セキュリティセンター内に「情報セキュリティ緊急支援チーム(CYMAT…CYber incident Mobile Assistant Team)」を発足し、サイバー攻撃などへの対応を支援するため、全府省庁の職員で構成することを目指した初の組織が誕生した。

警察庁は、警備局、生活安全局及び情報通信局の職員により構成される部門横断的なサイバーテロ対策推進室を設置し、都道府県警察に対してサイバーテロ対策に関する指導・調整の他、都道府県警察の職員に対する教育訓練を行うなど、総合的なサイバーテロ対策を推進しているが、2013 年度に「サイバー攻撃対策隊」(仮称)を創設する方針を打ち出した、防衛省も 2013 年度予算の概算要求の中で、「サイバー空間防衛隊」(仮称)を創設すると発表。

サイバー空間防衛隊は、自衛隊や防衛省に対する攻撃を防御するための専門組織とし、既にある「自衛隊指揮通信システム隊」と、「陸海空」の各自衛隊に分散していたサイバー攻撃対策の組織を集約したうえで、陣容も強化する方針のようです。

陸上自衛隊では、通信団(市ヶ谷駐屯地) 隷下の「システム防護隊」がサイバーテロ対応専門部隊ですが、同じ、市ヶ谷基地内に、「海上自衛隊・システム通信隊群」、「航空自衛隊・航空システム通信隊」と合わせて「自衛隊指揮通信システム隊」が設置されていますが、これが発展して、「サイバー空間防衛隊」になるようで、遅きに失している感はありますが、万全を期してもらいたいものです。

前述のように、アメリカは、サイバー攻撃も含め、テロを「戦争」と捉え、「刑事事件」として扱っていないが、日本は、先日のアルジェリアでのテロを殺人罪を適用する「刑事事件」として扱っている、テロの本質は、やはり「戦争」と解釈する方が正しいような気がするが、現行の日本の法律では難しいようです、法整備をしっかりと整えて、きちんと対応してもらいたいものです、先日、米国は中国のサイバー攻撃を批判したが、中国は、国の関与は無い、逆に米国が攻撃していると反論、真実は？既に戦争か？